

第 64 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 64 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 石澤 啓介

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 医科学部門内科系 臨床薬剤学分野)

平成 28 年 11 月 20 日（日）に徳島大学蔵本キャンパス長井記念ホールにおいて、第 64 回医療薬学公開シンポジウムを開催した。本シンポジウムではテーマを「多職種連携が生む臨床研究の推進と社会への還元」と設定して、臨床研究に関する特別講演とシンポジウムを実施した。参加者は 157 名と多数のご参加をいただき、職種の内訳は病院薬剤師 81 名、薬局薬剤師 39 名、医師 4 名、大学教員 5 名、薬学部学生 28 名であった。

まず、徳島大学病院臨床試験管理センター センター長・楊河宏章先生からは「臨床研究の意義と研究倫理」と題して、徳島大学病院内の計画された全ての臨床研究の倫理委員会申請を支援しておられる御経験から、概念が難しい研究倫理について分かりやすく御講演いただいた。また、新日本科学安全性研究所・古賀正先生からは、「臨床研究のデザインと研究の質を高めるための留意点」と題して、臨床研究を実践する際の研究デザインと統計解析手法を詳細に解説して頂いた。さらに、徳島大学病院薬剤部 薬品安全対策室長・櫻田巧先生からは「医師・臨床統計家との連携によって計画した前向き研究」と題して、薬剤師の立場から医師・生物統計家などの多職種と共同して実施した臨床研究の具体例をご紹介頂いた。シンポジウムの最後には、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 副研究科長・狩野光伸教授からは「医療には、どんな科学が必要だろうか」と題して、過去の歴史を例にあげ医療の発展には研究が必須であり、忙しい臨床業務の中でも研究に対するモチベーションを維持するべきだと御講演いただいた。後半の特別講演では、徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野・西岡安彦教授から「呼吸器疾患のトランスレーショナルリサーチ～アカデミア発の創薬を目指した多職種連携～」と題してご講演頂いた。講演の中では、臨床研究には診療におけるチーム医療と同様に多職種による連携が必要であることを説明しながら、シンポジウム参加者に臨床研究への参画を呼びかけて頂いた。

シンポジウム全体を通して活発な質疑応答が行われた。臨床研究を通じて社会貢献を果たすためには薬剤師がどのように参画するかを考える良い機会となった。本シンポジウムをきっかけに、多くの先生方に多職種連携によって臨床研究を推進していただき、質の高い薬物療法に貢献していただきたいと強く望んでいる。

最後に、講演をご快諾頂きました演者の先生方、並びに今回のシンポジウム開催にあたり、ご共催・ご後援いただいた徳島県病院薬剤師会、徳島県薬剤師会、日本薬学会中国四国支部の関係各位、さらに企画・運営にご尽力いただいた日本医療薬学会事務局の方々にご心より感謝申し上げます。